

2011 世論調査 結果

- 実施日：3月22～25日
- 方式：オンライン方式
- 対象：ハンガリー国内の、性別・年齢層別・最終学歴別・居住地別でハンガリー国民を代表する585人。
- 調査会社から回答者に対し、今般の東日本大震災を考慮に入れず、大震災前の状態で日本、日本人についてどう考えるか回答するよう依頼した上で調査を実施。

サマリー

ハンガリー人の大半は、日本に関心はあり、日本に対してオープン	ハンガリー人は、日本、日本の自然、文化、歴史、人々の生活を知ることについてオープンであると言えるが、ごく狭い層(5-6%)はまったく関心を示さない。そして、それとほぼ同じ割合でそれほど関心がないという層がある。
主な関心対象は、自然景観、文化、技術	日本に関心を抱くハンガリー人にとって最も魅力的なのは、自然環境、景観の美しさ、文化、芸術、科学技術分野。 回答者の60%はこれらの分野に関心。文化芸術の分野の中では、盆栽・日本庭園が最も人気がある。
勤勉な国民の伝統豊かな国	ハンガリー人の日本についての第一の連想は、「深い伝統を有する国」。第二は、「大国」、そして「経済力、技術力があり生活水準が高い」。 ハンガリー人は、日本人のことを第一に「勤勉」、「伝統を大切にする」、「規律正しい」と考えている。
行ったことはないが行ってみたい、ただ、とても高くて遠い	日本に旅行で行けるハンガリー人はわずか。大半は、「行けるなら行ってみたい」という層。 ほとんどの人は、経費の高さに問題があり、その他には地理的な遠さと言葉の問題も不利に働いている。 ハンガリー人は、まず日本の自然と文化（歴史的建築物、日本食、博物館・美術館）を体験したいと考えており、休暇と結びつくもの、例えば温泉、ショッピング、アミューズメント施設は二次的。 日本食・飲み物で最も関心が集まったのは、日本茶。

<p>日系企業は、よい職場</p>	<p>ハンガリーにある日系企業については、「雇用を促進している」「ハンガリーの経済・技術の発展に貢献している」と、基本的に好意的なイメージが持たれている。</p>
<p>日本文化発信：知られていない 日本語</p>	<p>日本の文化発信ボランティアが日本文化紹介を行っていたことについては、3分の1が聞いたことがあるものの、彼らの行った活動に参加したのは1%。 日本語を学びたいとしたのは10%で、「日本文化が好きだから」が第一の動機となっている。</p>
<p>アジアのパートナーは中国と日本</p>	<p>ハンガリー人は、アジアのパートナーとして中国と日本を最も重要と考えている。</p>
<p>信頼できる国</p>	<p>ハンガリー人は、日本を信頼できる国と考えている。 日本との協力は、第一に、科学技術や貿易といった経済関係と何らかの関わりのある分野でなされるべきと考えられている。</p>
<p>自動車製造、家電製品、ロボット</p>	<p>日本は多くの分野で世界水準に達しているが、その中でも自動車製造、家電製品製造、ロボット開発が最も知られている。</p>
<p>安保理常任理事国：57%が賛成</p>	<p>回答者の半分以上が、日本の国連安保理常任理事国入りに賛成。</p>

問1 あなたは日本にどの程度関心がありますか。

(単位%)

	非常に関心がある	中程度に関心がある	余り関心がない	全く関心がない
性別				
男	25	59	12	3
女	19	68	11	2
年齢グループ別				
18-39 歳	23	60	13	4
40-59 歳	21	65	12	3
60 歳以上	24	67	9	-
最終学歴別				
初等教育	23	63	12	2
中等教育	19	66	12	3
高等教育	25	65	9	1
居住地別				
ブダペスト (首都)	22	63	11	3
地方都市	23	64	11	2
地方町村	21	64	13	2
合計 (平均)	22	64	12	2

(合計 100%)

問2 日本のどの分野について関心がありますか。(複数回答可) - 1.
(単位%)

※回答数の多い順。紙面の関係から複数ページにわたる。

	自然・風土	文化や芸術	科学技術	日本食	歴史
性別					
男	57	53	76	42	41
女	63	65	42	44	30
年齢層					
18-39 歳	58	56	54	45	30
40-59 歳	60	60	56	42	33
60 歳以上	63	63	65	43	45
最終学歴					
初等教育	57	54	58	43	33
中等教育	66	65	55	45	36
高等教育	59	67	61	41	39
居住地					
ブダペスト(首都)	63	70	63	39	44
地方都市	59	58	56	44	31
町村	60	55	57	45	36
合計(平均)	60	59	58	43	35

問2 日本のどの分野について関心がありますか。(複数回答可) - 2.
(単位%)

	経済・ビジネス	観光情報	日本語	政治・外交・軍事 安全保障	その他	興味がない
性別						
男	21	15	13	8	3	6
女	15	18	8	6	3	6
年齢層						
18-39 歳	14	20	16	6	3	7
40-59 歳	18	15	9	7	4	4
60 歳以上	24	15	5	8	3	5
最終学歴						
初等教育	19	15	9	8	3	7
中等教育	16	16	14	5	2	5
高等教育	19	25	13	8	5	3
居住地						
ブダペスト(首都)	18	17	18	8	1	7
地方都市	17	20	11	8	2	5
町村	19	12	6	5	5	7
合計(平均)	18	17	11	7	3	6

問3 あなたは日本のどのような文化・芸術的分野に関心がありますか。
 (複数回答可) - 1.
 (単位%)

※回答数の多い順。紙面の関係から複数ページにわたる。

	盆栽・庭	武道	(建築)	生け花	茶道
性別					
男	59	60	41	25	30
女	72	34	38	52	46
年齢層					
18-39 歳	59	49	35	18	39
40-59 歳	66	49	43	43	31
60 歳以上	77	38	43	66	46
最終学歴					
初等教育	64	48	38	39	34
中等教育	67	45	43	41	40
高等教育	70	42	41	39	53
居住地					
ブダペスト (首都)	70	52	42	42	48
地方都市	65	42	36	37	34
町村	64	49	44	41	39
合計 (平均)	66	46	40	39	38

問3 あなたは日本のどのような文化・芸術的分野に関心がありますか。
 (複数回答可) - 2.
 (単位%)

	書道	映画・ドラマ	日本食	コンピューターゲーム	伝統的音楽(雅楽・箏曲)	ファッション
性別						
男	27	41	24	35	17	8
女	43	26	25	10	15	17
年齢層						
18-39 歳	37	22	23	26	18	14
40-59 歳	35	33	23	20	14	9
60 歳以上	35	50	30	17	16	16
最終学歴						
初等教育	30	38	21	24	13	12
中等教育	44	28	30	19	20	15
高等教育	41	23	32	14	19	10
居住地						
ブダペスト(首都)	41	32	33	27	25	15
地方都市	33	31	21	19	14	12
町村	37	35	25	22	13	12
合計(平均)	36	33	25	21	16	13

問3 あなたは日本のどのような文化・芸術的分野に関心がありますか。
 (複数回答可) - 3.
 (単位%)

	アニメ	漫画	伝統的舞 台芸術 (歌舞 伎・能・ 狂言)	日本文学	ポップ音 楽・ロッ ク	その他	関心無し
性別							
男	13	12	6	10	7	3	6
女	9	10	14	8	4	1	5
年齢層							
18-39 歳	16	15	10	9	8	2	7
40-59 歳	8	9	8	8	3	2	6
60 歳以上	7	7	14	10	4	2	3
最終学歴							
初等教育	11	10	8	7	7	1	5
中等教育	15	13	14	11	5	2	7
高等教育	4	5	14	14	1	3	5
居住地							
ブダペスト (首都)	11	10	17	18	13	5	4
地方都市	10	9	7	6	5	1	5
町村	12	12	11	8	2	1	7
合計 (平均)	11	11	10	9	5	2	5

問4 あなたは、日本についてどのような印象を持っていますか。
 (複数回答可) - 1.
 (単位%)

※回答数の多い順。紙面の関係から複数ページにわたる。

	豊かな伝 統・文化を 有する国	大国	経済力・技術 力があり生活 水準が高い国	平和な 国	文化的 にハン ガリー やヨー ロッパ と異っ ている	清潔	機械 化・自 動化さ れている	混雑し ている・人 が多い
性別								
男	83	74	66	62	56	63	53	45
女	75	66	57	49	54	44	43	49
年齢層								
18-39 歳	79	73	58	50	51	50	40	50
40-59 歳	81	70	62	55	52	49	51	44
60 歳以上	77	67	65	61	67	60	55	48
最終学歴								
初等教育	76	66	57	55	59	50	44	46
中等教育	83	66	66	55	51	54	52	52
高等教育	81	78	70	55	47	61	54	43
居住地								
ブダペスト (首都)	82	72	67	62	64	59	53	47
地方都市	75	69	62	52	51	47	46	48
町村	82	71	58	55	56	58	46	47
合計 (平均)	79	70	61	55	55	53	48	47

問4 あなたは、日本についてどのような印象を持っていますか。
 (複数回答可) - 2.
 (単位%)

	安全・治安がよい	狭い住居	自由で民主的な国	物価が高い	環境が汚染されている	その他
性別						
男	42	34	27	13	6	2
女	26	33	18	9	11	2
年齢層						
18-39 歳	29	29	19	12	9	2
40-59 歳	34	37	20	11	8	3
60 歳以上	39	35	29	9	10	2
最終学歴						
初等教育	33	31	22	8	11	2
中等教育	32	37	23	16	8	1
高等教育	41	37	19	13	4	5
居住地						
ブダペスト (首都)	35	35	28	11	10	3
地方都市	27	34	18	11	9	1
町村	42	31	26	11	8	3
合計 (平均)	33	33	22	11	9	2



問5 日本人はどのような特徴を持つ人たちだと思いますか。

(複数回答可) - 1.

(単位%)

※回答数の多い順。紙面の関係から複数ページにわたる。

	勤勉	伝統文化を大切に する	規律正しい	親切で礼儀正しい	誠実で穏やか	ワーカホリック	創造性に富んでいる
性別							
男	93	79	82	78	72	64	44
女	86	83	71	64	74	57	41
年齢層							
18-39 歳	86	77	71	61	64	54	39
40-59 歳	89	81	78	73	68	59	39
60 歳以上	94	87	81	81	70	71	52
最終学歴							
初等教育	87	79	71	69	70	59	41
中等教育	92	85	82	72	72	58	42
高等教育	94	80	85	73	75	67	46
居住地							
ブダペスト (首都)	89	77	82	72	73	72	44
地方都市	89	82	73	66	70	59	44
町村	89	83	77	76	65	55	39
合計 (平均)	89	81	76	70	72	60	42

問5 日本人はどのような特徴を持つ人たちだと思いますか。
 (複数回答可) - 2.
 (単位%)

	環境配慮が 高い	感情表現 に乏しい	自分の意見 をはっきり 言わない	常に集団 で行動し 閉鎖的	個性がない	その他
性別						
男	43	37	9	7	8	1
女	36	40	16	9	5	1
年齢層						
18-39 歳	32	33	9	7	7	0
40-59 歳	41	33	11	8	5	1
60 歳以上	48	53	19	8	6	2
最終学歴						
初等教育	42	37	15	10	7	1
中等教育	33	38	9	8	6	0
高等教育	38	43	11	1	6	-
居住地						
ブダペスト (首都)	39	41	14	11	6	
地方都市	37	33	10	4	4	1
町村	42	44	15	11	9	2
合計 (平均)	38	38	12	8	6	1

問6 あなたは日本語学習に関心がありますか。
(単位%)

	はい	いいえ	わからない
性別			
男	8	87	5
女	12	82	4
年齢層			
18-39 歳	15	74	3
40-59 歳	10	82	5
60 歳以上	5	89	4
最終学歴			
初等教育	5	88	6
中等教育	9	80	5
高等教育	14	90	4
居住地			
ブダペスト (首都)	13	78	3
地方都市	10	85	5
町村	6	89	7
合計 (平均)	10	85	5

(合計 100%)

問7（問6で①を回答した人へ）日本語学習に関心がある理由は何ですか。
（単位％）

	日本文化が好き だから	日本に行きたい から	仕事に有利 だから	日本の漫画 を読みたい から	その他
性別					
男	77	7	1	1	6
女	89	9	2	2	5
年齢層					
18-39 歳	79	11	4	2	5
40-59 歳	85	9	2	3	6
60 歳以上	83	3	0	1	4
最終学歴					
初等教育	75	3	0	1	7
中等教育	85	8	2	1	5
高等教育	85	9	2	3	6
居住地					
ブダペスト（首都）	89	11	3	3	7
地方都市	80	9	1	2	5
町村	76	5	0	1	6
合計（平均）	82	8	2	2	6

（合計 100％）



問8 あなた、またはあなたの家族・親戚が日本に旅行に行ったことがありますか。

(単位%)

	言ったことがある	行ったことはないが関心はある	関心がないので行ったことがない
性別			
男	3	87	10
女	2	89	9
年齢層			
18-39 歳	2	85	13
40-59 歳	3	92	6
60 歳以上	3	90	7
最終学歴			
初等教育	1	88	10
中等教育	2	88	10
高等教育	6	90	4
居住地			
ブダペスト (首都)	4	84	11
地方都市	2	90	8
町村	2	89	10
合計 (平均)	2	89	9

(合計 100%)

問9 日本に旅行したことがない場合、その理由は何ですか。
(複数回答可) - 1.
 (単位%)

※回答数の多い順。紙面の関係から複数ページにわたる。

	航空賃が高い	地理的に遠い	日本語あるいは英語ができない	日本は物価が高い
性別				
男	70	50	41	19
女	68	46	39	19
年齢層				
18-39 歳	71	43	29	19
40-59 歳	65	45	41	17
60 歳以上	70	60	56	22
最終学歴				
初等教育	66	50	48	15
中等教育	72	43	31	21
高等教育	72	51	24	31
居住地				
ブダペスト (首都)	71	59	39	20
地方都市	70	48	38	21
町村	66	41	43	15
日本への旅行				
行きたい	72	47	41	21
行きたくない	43	57	31	4
合計 (平均)	69	48	40	19

問9 日本に旅行したことがない場合、その理由は何ですか。
 (複数回答可) - 2.
 (単位%)

	適切な情報が入手 できず、どこに行 けばよいかかわら ない	経済的な理 由で(「そ の他」の中 で特に目立 ったため)	国内の宿泊・ 交通の手配が 難しい	旅行先とし て魅力を感じ ない	その他
性別					
男	10	7	8	8	5
女	9	9	6	5	4
年齢層					
18-39 歳	9	4	4	8	4
40-59 歳	9	13	9	7	5
60 歳以上	11	8	10	3	5
最終学歴					
初等教育	11	9	9	7	4
中等教育	8	5	4	5	4
高等教育	8	9	5	7	5
居住地					
ブダペスト(首都)	13	6	6	7	4
地方都市	7	8	7	4	4
町村	12	10	8	9	5
日本への旅行					
行きたい	9	9	7	3	4
行きたくない	15	4	6	39	7
合計(平均)	10	8	7	6	4

*: az „egyéb okok” között említették

問10-1 (日本に行ったことがない場合) 日本を旅行するとしたら、どこに行きたい、または何を体験したいですか。-1.
(単位%)

※回答数の多い順。紙面の関係から複数ページにわたる。

	伝統的・歴史的建造物	自然景観	日本料理	文化施設(美術館・博物館)
性別				
男	78	77	62	55
女	77	77	58	57
年齢層				
18-39 歳	74	79	62	48
40-59 歳	81	75	61	56
60 歳以上	76	77	55	66
最終学歴				
初等教育	74	74	58	55
中等教育	82	81	62	55
高等教育	82	81	64	61
居住地				
ブダペスト(首都)	81	73	59	59
地方都市	74	77	62	53
町村	80	80	57	58
日本への旅行				
行きたい	82	81	62	59
行きたくない	33	43	33	20
合計(平均)	77	77	60	56

問10-1 (日本に行ったことがない場合) 日本を旅行するとしたら、どこに行きたい、または何を体験したいですか。 - 2.
(単位%)

	伝統文化(歌舞伎, 伝統音楽など)	リゾート地	温泉	ショッピング	秋葉原	アミューズメント施設
性別						
男	40	38	40	35	51	39
女	51	50	39	35	20	30
年齢層						
18-39 歳	47	39	44	39	33	39
40-59 歳	46	47	34	32	34	31
60 歳以上	44	49	41	34	39	31
最終学歴						
初等教育	42	44	41	35	38	38
中等教育	50	47	43	37	28	29
高等教育	51	39	28	30	35	26
居住地						
ブダペスト(首都)	52	34	36	36	43	31
地方都市	43	49	42	37	30	35
町村	46	44	38	32	37	34
日本への旅行						
行きたい	48	45	41	37	35	36
行きたくない	28	37	33	20	28	19
合計(平均)	46	44	40	35	35	34

問10-1 (日本に行ったことがない場合) 日本を旅行するとしたら、どこに行きたい、または何を体験したいですか。- 3.

(単位%)

	ストリートフ アクション	アニメ・マン ガ	ロック, ポッ プ・ミュージ ック	その他	日本には関し 無しので行か ない
性別					
男	10	12	8	2	2
女	21	9	4	0	2
年齢層					
18-39 歳	19	15	10	1	3
40-59 歳	12	7	5	1	1
60 歳以上	18	8	3	1	2
最終学歴					
初等教育	16	11	6	1	3
中等教育	17	13	8	2	1
高等教育	12	5	3	1	-
居住地					
ブダペスト (首都)	16	15	8	2	4
地方都市	16	9	6	1	2
町村	16	11	4	-	1
日本への旅行					
行きたい	17	11	7	1	-
行きたくない	4	9	-	-	20
合計 (平均)	16	11	6	1	2

問10-2 (日本に行ったことがある場合) 日本のどこに魅力を感じましたか?

(複数回答可) - 1.

(単位%)

※回答数の多い順。紙面の関係から複数ページにわたる。

	自然景観	伝統的・歴史的建造物	伝統文化	日本料理
性別				
男	90	90	55	75
女	100	94	78	19
年齢層				
18-39 歳	77	77	20	35
40-59 歳	100	100	68	36
60 歳以上	100	94	94	83
最終学歴				
初等教育	100	100	76	72
中等教育	100	100	76	0
高等教育	84	78	47	63
居住地				
ブダペスト (首都)	84	84	54	30
地方都市	100	94	58	67
町村	100	100	100	77
合計 (平均)	94	91	65	54

問10-2 (日本に行ったことがある場合) 日本のどこに魅力を感じましたか?
(複数回答可) - 2.

	文化施設 (美術館・博物館)	ショッピング	リゾート地	秋葉原	温泉	ストリートファッション
性別						
男	57	56	25	23	15	31
女	48	0	34	26	36	6
年齢層						
18-39 歳	41	35	0	20	20	35
40-59 歳	51	0	17	14	17	0
60 歳以上	65	65	58	37	31	31
最終学歴						
初等教育	62	72	39	38	51	48
中等教育	54	0	0	44	6	0
高等教育	44	14	32	0	28	6
居住地						
ブダペスト (首都)	44	0	14	25	6	0
地方都市	40	49	42	25	48	30
町村	100	77	29	23	44	48
合計 (平均)	53	35	28	24	23	22

問10-2 (日本に行ったことがある場合) 日本のどこに魅力を感じましたか?
 (複数回答可) - 3.
 (単位%)

	アミューズメント施設	アニメ・漫画	ロック, ポップミュージック	その他	わからない
性別					
男	16	16	16	19	10
女	22	6	0	0	0
年齢層					
18-39 歳	0	35	35	0	23
40-59 歳	17	0	0	36	0
60 歳以上	32	6	0	0	0
最終学歴					
初等教育	39	24	24	0	0
中等教育	0	0	0	0	0
高等教育	6	6	0	30	16
居住地					
ブダペスト (首都)	14	0	0	30	16
地方都市	31	30	24	0	0
町村	0	0	0	0	0
合計 (平均)	18	12	10	12	6

問 1 1 日本食で好きな食べ物，または食べてみたいものはどれですか。
 (複数回答可) - 1.
 (単位%)

※回答数の多い順。紙面の関係から複数ページにわたる。

	日本茶	果物	お菓子	寿司	麺類
性別					
男	73	66	59	65	52
女	68	68	62	51	53
年齢層					
18-39 歳	69	65	67	58	55
40-59 歳	70	67	61	56	56
60 歳以上	72	72	50	58	45
最終学歴					
初等教育	68	68	59	56	51
中等教育	71	67	65	59	56
高等教育	76	66	61	61	51
居住地					
ブダペスト (首都)	69	56	61	58	53
地方都市	70	70	59	61	50
町村	71	70	63	53	56
合計 (平均)	70	67	61	58	53

問 1 1 日本食で好きな食べ物，または食べてみたいものはどれですか。
 (複数回答可) - 2.
 (単位%)

	酒類	カレーライス	調味料	みそ汁	日本の牛肉
性別					
男	49	39	24	29	30
女	28	27	26	20	10
年齢層					
18-39 歳	43	40	23	30	21
40-59 歳	38	27	27	20	21
60 歳以上	31	28	25	21	14
最終学歴					
初等教育	37	27	23	22	19
中等教育	40	40	24	28	19
高等教育	38	38	33	25	23
居住地					
ブダペスト (首都)	37	37	31	23	22
地方都市	37	30	23	26	19
町村	41	34	23	23	18
合計 (平均)	38	33	25	24	19



問 1 1 日本食で好きな食べ物, または食べてみたいものはどれですか。
 (複数回答可) - 3.
 (単位%)

	刺身	すき焼き	天ぷら	日本食が嫌い
性別				
男	19	14	13	5
女	10	10	8	4
年齢層				
18-39 歳	18	14	14	7
40-59 歳	15	12	9	3
60 歳以上	8	9	6	3
最終学歴				
初等教育	12	10	8	4
中等教育	19	16	12	6
高等教育	16	15	18	3
居住地				
ブダペスト (首都)	17	14	9	7
地方都市	14	12	12	4
町村	13	12	10	5
合計 (平均)	14	12	11	5

問12 日本が世界をリードしていると思う分野はありますか？
 (複数回答可) - 1.
 (単位%)

※回答数の多い順。紙面の関係から複数ページにわたる。

	自動車製造	家庭用電化製品	ロボット	コンピュータ	携帯電話	鉄道
性別						
男	91	76	84	74	58	59
女	79	73	64	65	52	42
年齢層						
18-39 歳	81	74	74	61	53	43
40-59 歳	86	73	71	73	53	45
60 歳以上	89	77	75	77	60	66
最終学歴						
初等教育	85	75	73	68	57	47
中等教育	87	76	72	68	54	54
高等教育	78	70	76	78	48	51
居住地						
ブダペスト (首都)	79	84	83	74	63	54
地方都市	85	71	69	65	52	48
町村	88	74	74	74	54	49
合計 (平均)	85	74	73	69	55	50



問12 日本が世界をリードしていると思う分野はありますか？

(複数回答可) - 2.

(単位%)

	建築・土木	原子力	医療・製薬	宇宙開発	その他	わからない
性別						
男	34	31	12	13	1	2
女	26	30	10	8	0	3
年齢層						
18-39 歳	28	24	9	8	1	3
40-59 歳	27	30	12	12	1	2
60 歳以上	35	41	13	12	-	2
最終学歴						
初等教育	31	30	13	13	1	4
中等教育	28	31	10	5	1	1
高等教育	27	30	5	13	1	-
居住地						
ブダペスト (首都)	31	35	9	10	1	3
地方都市	29	27	11	8	0	1
町村	30	33	13	14	1	4
合計 (平均)	30	30	11	11	1	3

問13 ハンガリーにある日系企業についてどう思いますか。
 (複数回答可) - 1.
 (単位%)

※回答数の多い順。紙面の関係から複数ページにわたる。

	ハンガリー人の 雇用促進に貢献 している	ハンガリーへの 後術移転に貢献 している	ハンガリーとは 異質な労働モラ ル・慣習がある	ハンガリーの経 済発展に貢献し ている
性別				
男	65	66	62	58
女	60	56	49	42
年齢層				
18-39 歳	61	52	39	42
40-59 歳	64	56	57	50
60 歳以上	62	78	76	62
最終学歴				
初等教育	59	58	58	47
中等教育	66	61	46	51
高等教育	71	68	63	56
居住地				
ブダペスト (首都)	61	74	59	59
地方都市	62	56	52	46
町村	63	58	57	50
合計 (平均)	63	60	55	50

問13 ハンガリーにある日系企業についてどう思いますか。
 (複数回答可) - 2.
 (単位%)

	地元環境に配慮している	よい労働条件・働きたい	自社の利潤だけを追求	わからない
性別				
男	43	30	12	7
女	31	21	11	7
年齢層				
18-39 歳	26	24	10	12
40-59 歳	40	25	17	4
60 歳以上	48	28	8	4
最終学歴				
初等教育	39	27	14	9
中等教育	34	24	8	5
高等教育	35	22	9	3
居住地				
ブダペスト (首都)	38	20	13	7
地方都市	31	23	10	7
町村	45	31	14	7
合計 (平均)	37	25	12	7

問14 ハンガリーでつい最近まで、日本人ボランティアが学校等に配属されて、日本語の授業や様々な日本文化紹介活動を行っていたのを知っていますか。

(単位%)

	知っている、そして彼らの日本語授業・文化イベントに参加したことあり	知っているが、授業やイベントには参加したことない	知らない
性別			
男	1	30	69
女	1	33	66
年齢層			
18-39 歳	1	29	70
40-59 歳	1	27	73
60 歳以上	1	42	57
最終学歴			
初等教育	0	31	69
中等教育	2	35	64
高等教育	-	28	72
居住地			
ブダペスト（首都）	2	25	73
地方都市	1	30	69
町村	-	37	63
合計（平均）	1	31	68

(合計 100%)

問15 東アジア諸国のうち、どの国がハンガリーにとって最も重要なパートナー
 であると考えますか。(単一回答)

(単位%)

	日本	中国	韓国	台湾	わからない
性別					
男	28	47	7	3	16
女	33	36	4	2	25
年齢層					
18-39 歳	27	39	3	2	28
40-59 歳	31	39	8	3	21
60 歳以上	36	47	4	2	11
最終学歴					
初等教育	35	36	5	2	22
中等教育	25	46	6	1	22
高等教育	24	51	4	5	16
居住地					
ブダペスト (首都)	21	45	4	4	26
地方都市	31	43	4	2	20
町村	37	37	7	2	18
合計 (平均)	31	41	5	2	21

(合計 100%)



問16 日本は信頼できる国であると考えますか。
(単位%)

	非常に信頼できる	信頼できる	あまり信頼できない	全く信頼できない
性別				
男	36	59	5	-
女	22	72	5	1
年齢層				
18-39 歳	26	67	7	1
40-59 歳	30	65	4	2
60 歳以上	30	66	4	-
最終学歴				
初等教育	25	67	7	1
中等教育	31	66	3	-
高等教育	38	61	-	1
居住地				
ブダペスト（首都）	34	60	5	1
地方都市	25	68	6	1
町村	30	66	3	1
合計（平均）	28	66	5	1

(合計 100%)

問17 ハンガリーにとって日本との友好関係は重要と考えますか。
(単位%)

	非常に重要	重要	特に重要ではない	全く重要ではない
性別				
男	40	53	6	0
女	31	58	10	2
年齢層				
18-39 歳	32	57	9	2
40-59 歳	32	59	8	1
60 歳以上	43	50	7	-
最終学歴				
初等教育	34	55	9	2
中等教育	37	56	7	-
高等教育	37	59	4	-
居住地				
ブダペスト（首都）	34	53	11	3
地方都市	33	57	9	0
町村	38	56	5	1
合計（平均）	35	56	8	1

(合計 100%)

問18 どの分野で両国間の協力関係を強化すべきと考えますか。
 (複数回答可) - 1.
 (単位%)

※回答数の多い順。紙面の関係から複数ページにわたる。

	科学技術	貿易・投資	エネルギー	観光
性別				
男	84	78	61	55
女	68	65	49	50
年齢層				
18-39 歳	66	71	46	54
40-59 歳	78	70	54	49
60 歳以上	86	72	66	55
最終学歴				
初等教育	71	69	60	49
中等教育	79	76	48	59
高等教育	86	71	43	53
居住地				
ブダペスト (首都)	81	71	55	48
地方都市	72	71	55	53
町村	78	71	53	54
合計 (平均)	76	71	54	53

問 1 8 どの分野で両国間の協力関係を強化すべきと考えますか。
(複数回答可) - 2.
 (単位%)

	環境分野	文化・人物 交流	外交・安保	その他	わからない
性別					
男	46	39	22	1	5
女	35	38	30	0	10
年齢層					
18-39 歳	37	38	27	1	11
40-59 歳	40	38	24	2	5
60 歳以上	46	39	28	-	6
最終学歴					
初等教育	41	34	30	1	10
中等教育	38	44	21	-	4
高等教育	46	46	21	3	6
居住地					
ブダペスト (首都)	46	43	25	2	11
地方都市	37	36	25	1	6
町村	42	40	28	-	8
合計 (平均)	40	38	26	1	8

問19 次のどの分野について、日本が指導的役割を果たすべきと考えますか。
 (複数回答可) - 1.
 (単位%)

	科学技術の発展	地球環境保全	世界経済の発展	核軍縮・不拡散への取り組み	発展途上国への援助供与
性別					
男	66	48	46	35	26
女	50	40	36	27	29
年齢層					
18-39歳	51	38	36	22	25
40-59歳	61	46	42	34	26
60歳以上	63	48	46	41	34
最終学歴					
初等教育	53	41	40	32	30
中等教育	61	44	41	31	24
高等教育	68	51	46	25	25
居住地					
ブダペスト(首都)	56	48	37	43	25
地方都市	58	40	42	27	28
町村	57	45	42	30	28
合計(平均)	57	43	41	31	28

問 19 次のどの分野について、日本が指導的役割を果たすべきと考えますか。
 (複数回答可) - 2.
 (単位%)

	文化交流	国際紛争解決	国連平和維持活動への参加	軍事的貢献・対テロリズム	わからない
性別					
男	20	18	17	11	14
女	18	17	15	15	21
年齢層					
18-39 歳	19	15	16	11	25
40-59 歳	17	16	11	13	14
60 歳以上	22	23	24	17	12
最終学歴					
初等教育	19	18	19	15	19
中等教育	20	16	15	11	18
高等教育	16	18	9	13	10
居住地					
ブダペスト (首都)	30	21	20	13	16
地方都市	17	15	10	11	18
町村	15	18	24	17	18
合計 (平均)	19	17	16	14	18

問 2 0 日本は国連安全保障理事会常任理事国となるべきだと思いますか。
(単位%)

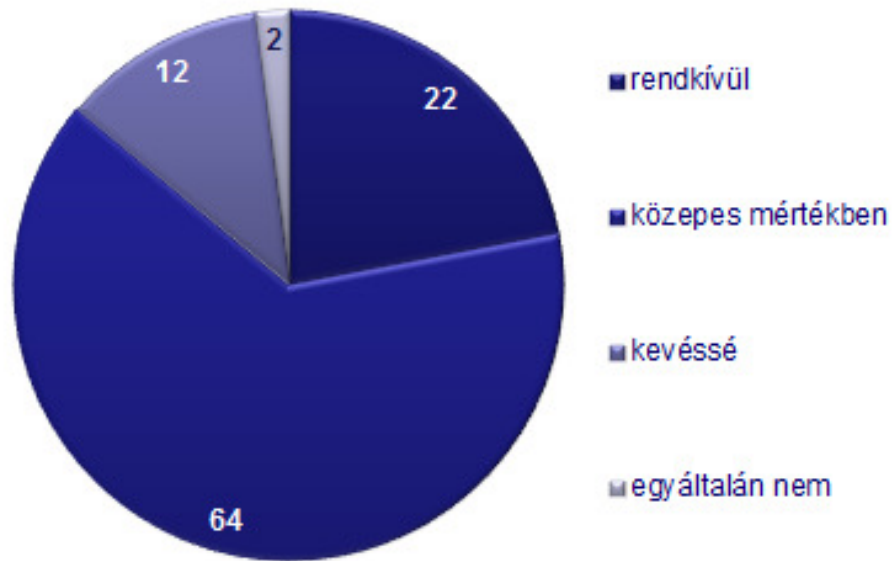
	そう思う	そう思わない	わからない
性別			
男	62	10	29
女	54	4	42
年齢層			
18-39 歳	51	9	40
40-59 歳	57	6	37
60 歳以上	66	5	29
最終学歴			
初等教育	57	7	36
中等教育	57	7	36
高等教育	58	6	35
居住地			
ブダペスト (首都)	57	6	37
地方都市	56	6	38
町村	59	8	33
合計 (平均)	57	7	36

(合計 100%)

図表による調査結果(ハンガリー語)

Japán iránti érdeklődés

A magyar lakosság nyitottnak mutatkozik a felkelő nap országa iránt. A mintába került személyek bő **ötöde kifejezetten érdeklődőnek** vallja magát, míg a megkérdezettek többsége, közel **kétharmada** – saját bevallása szerint – **közepes mértékben érdeklődik** Japán felől. Körülbelül minden hetedik magyart kevésbé, vagy egyáltalán nem foglalkoztatja a távol-keleti ország történelme, kultúrája, mindennapi élete.



Minden vizsgált társadalmi-demográfiai csoport hasonló mértékű figyelmet szentel a szigetországnak, azaz az átlagosnál sem sokkal jobban, sem sokkal kevésbé nem érdeklődnek iránta.



40



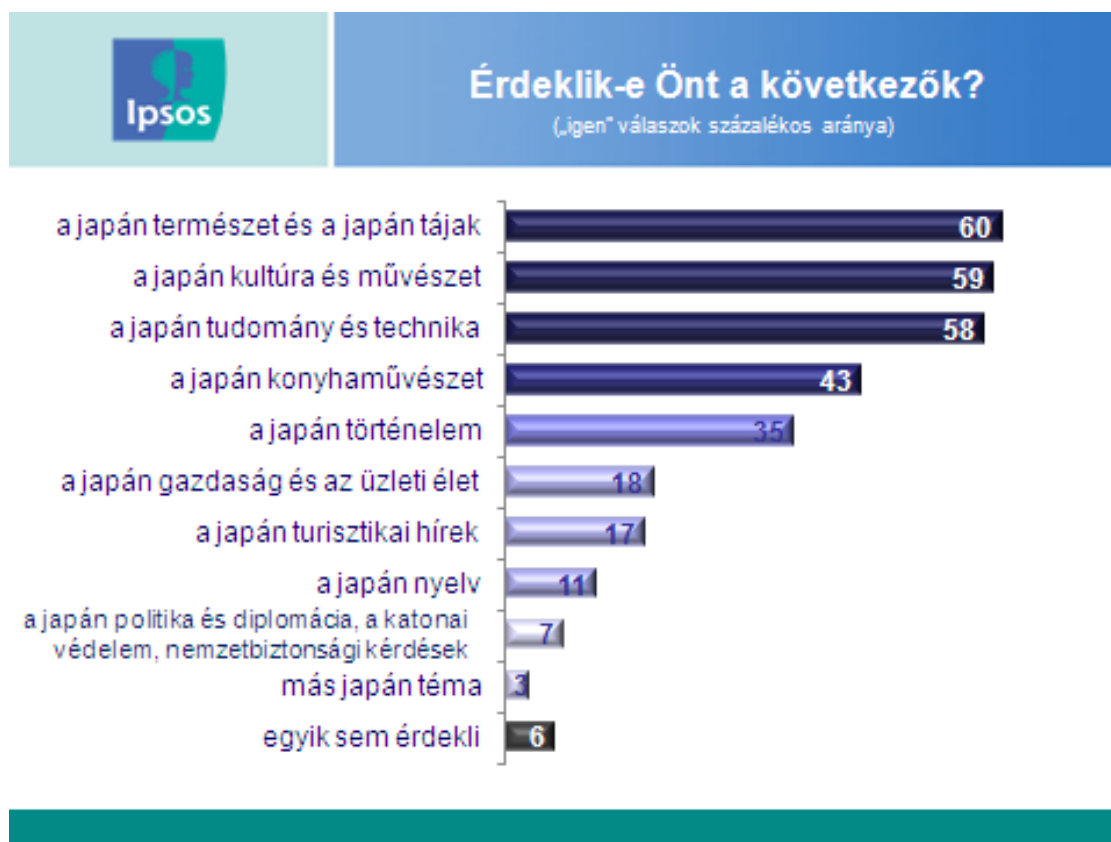
2011. március

Ami leginkább magával ragadja az ország iránt érdeklődőket, az a japán természet és táj, kultúrájuk és művészetük, valamint a tudomány és a technika terén elért eredményeik. E területek mindegyike a többségnek, a magyarok hattizedének kíváncsiságát felkelti. Közepesnek mondható az érdeklődés, a megkérdezettek körülbelül kétötödét foglalkoztatja a japán konyhaművészet és a hozzá tartozó ínyenségek, valamint az ország történelme.

Gazdasági kérdések, mint az üzleti élet, illetve a turizmus helyzete kevésbé fontos az ország iránt érdeklődők számára, míg aktuális politikai, diplomáciai vagy nemzetgazdasági kérdések szinte egyáltalán nem azok. Maga a japán nyelv, talán annak az európaiaktól élesen eltérő volta miatt, a többség számára nem része annak, amit az országból meg szeretnének ismerni. Csupán a válaszadók egytizedét foglalkoztatja mélyrehatóbban a japán nyelv.

Néhányan a felsoroltakon kívül is említettek általuk fontosnak vélt témákat. Ezek közül kiemelendő a harcművészetek kérdésköre, mint érdeklődésre számot tartó terület, 1%-nyi spontán említéssel. Ugyanennyien a jelenlegi katasztrófát említették, mint az érdeklődés homlokterében álló témát.

Mint ahogy az az előző kérdés során is kiderült, ha nem is jelentős, de a lakosság egy csekély hányada semmiféle érdeklődést nem tanúsít Japán iránt. Jelen esetben 6%-nyian egyik általunk felsorolt téma iránt sem fogékonyak.



Az ország természeti szépségeit, földrajzát, a japán tájat gyakorlatilag minden vizsgált csoportba tartozó ugyanúgy szeretné megismerni. Ehhez képest a japán kultúrára és művészetekre inkább a nők (65%), míg a tudományra és a technikai újdonságokra – érthető módon – inkább a férfiak (76%) kíváncsiak jobban. Ezen kívül a kultúra iránti érdeklődés az iskolai végzettség emelkedésével, illetve a települési hierarchián felfelé haladva fokozódik.

A konyhaművészet sem osztja meg a lakosságot, hasonló mértékben érdeklődnek iránta a különböző szocio-demográfiai csoportba tartozók. A japán történelem azonban inkább foglalkoztatja a férfiakat, mint a nőket (41 vs. 30%), és az átlagosnál jobban a fővárosi, valamint az idősebb lakosságot (44-45%).

A japán üzleti élet szintén a 60 év felettek körében (24%) népszerűbb téma az átlagosnál, míg a turisztikai hírekkel a felsőfokú végzettségűek (25%) foglalkoznak valamelyest intenzívebben. A japán nyelv iránt inkább érdeklődnek a férfiak, mint a nők (13 vs. 8%), emellett az átlagosnál jóval népszerűbb a fővárosban és a fiatalok körében (18 és 16%).

Az általános témákon túl konkrétabb területeket is felsoroltunk a kérdezetteknek, hogy differenciáltabban is megismerhessük, pontosan mi érdekli őket a japán kultúrából.



Az egyes művészeti ágak közül a **japánkert** az, amely leginkább magával ragadja a magyarokat. A válaszadók **kétharmadának tetszik** a bonsai. Szintén sokak figyelmét felkeltik a japán **harcművészetek**, amelyekkel a megkérdezettek közel **fele** szívesen foglalkozik.

A mintába került személyek (szűk) kétötöde érdeklődik a hagyományos virágrendezés, az Ikebana, a teaszertartás. Japán filmet a lakosság egyharmada néz szívesen.

Ennél is kisebb kör, a mintába került személyek ötödének érdeklődését kelti fel a modern kor egyik gyümölcse, a számítógépes játékok. Még ennél is kevesebbeket (9-16%) foglalkoztat a hagyományos japán zene és színház, az irodalom, az anime, a manga és a divat.

A modern japán zene iránt egyáltalán nem érdeklődnek a magyarok (csupán 5%-uk). Egyéb, a japán kultúrához tartozó területet mindössze 2%-nyian említettek: ilyen volt például az origami, az akvakertészet vagy a gésák (1-1 fő érintette e témákat).

Mint ahogy az előző kérdés esetében, úgy itt is megállapíthatjuk, hogy minden huszadik válaszadó elzárkózik a távol-keleti ország megismerésétől.

Az egyes művészeti ágak iránti érdeklődés legtöbbször nemfüggő. Míg a japánkert, a virágrendezés, a teaszertartás, a divat, valamint a színház inkább a nők, addig a harcművészetek, a filmek, a számítógépes játékok, az anime, a manga, illetve a pop- és rockzene inkább a férfiak érdeklődésére tarthat számot. A hagyományos zene és az irodalom mindkét nem figyelmét hasonló módon felkelti.

A kertészkedés, azaz a bonsai és az Ikebana az életkor emelkedésével egyre vonzóbb téma, ahogy a filmek is. A számítógépes játékok, az anime, a manga, a modern zene inkább a fiatalok terepe, míg a harcművészetek a fiataloké és a középkorúaké is. A teázás a fiatalok és az idősek számára is vonzó.

Az irodalom és a teaszertartás az iskolai végzettség emelkedésével egyre népszerűbb, míg az anime, manga és a japán filmek esetében fordított a helyzet.

A budapesti lakosság körében az átlagosnál népszerűbb a hagyományos zene és színház, az irodalom, a modern zene és a teázás is.

Japánhoz köthető érzések, benyomások

Japánnal kapcsolatban az emberek elsősorban arra asszociálnak, hogy az egy **gazdag hagyományokkal rendelkező ország**. A válaszadók döntő többsége, nyolctizede osztja ezt a véleményt. Emellett a többség úgy véli, hogy nagyhatalom és jó életszínvonalon élnek ott az emberek. A magyarok többsége számára Japán egy egzotikus ország, amelyet béke és tisztaság jellemez. Ugyanakkor a megkérdezettek közel fele szerint hozzátartozik Japánhoz az automatizáltság, valamint a zsúfoltság is.

Talán az elmúlt időszakban bekövetkezett katasztrófáknak is köszönhetően, de mindössze a magyarok harmada gondolja úgy a szigetországról, hogy az biztonságos. Még ennél is kevesebben, csupán egyötödnyien tartják úgy, hogy Japán egy demokratikus alapokon működő, szabad állam.

A kis lakások, a magas árak, valamint a szennyezett környezet nem az, ami Japánról elsősorban az emberek eszébe jut.

Egyéb, a távol-keleti országra vonatkozó jelző mindössze 2%-nyi válaszadónak jutott eszébe: ezek alapján a japánok optimisták, vendégszeretők, barátságosak, szorgalmasak (1-1 fő említette).



Összességében elmondható, hogy szinte minden általunk felsorolt jelző jellemzőbb a férfiak, mint a nők szerint (kivéve a zsúfoltság és a szennyezettség kérdését, amely két negatív terület). Ez alapján úgy tűnik, a férfiak involváltabbak, jobban foglalkoztatja őket esetleg a téma, talán az összbenyomásuk valamivel pozitívabb is, mint a nőké.

Az iskolai végzettséggel együtt nő azok aránya, akik szerint fontos jellemzője az országnak, miszerint a fejlett gazdaság magas életszínvonalat biztosít lakói számára. Ugyanakkor elmondható, hogy minél kvalifikáltabb egy válaszadó, annál kevésbé tartja egzotikus országnak Japánt.

Az idősek körében az átlagosnál is többen osztják azt a véleményt, hogy Japán egzotikus, automatizált, de szabad, demokratikus ország.

A magyarok a japánokat egyértelműen szorgalmas, fegyelmezett, udvarias, becsületes és hagyománytisztelő embereknek tartják – a megkérdezettek hét-kilenczede szerint mindez jellemző rájuk. További hattizednyien úgy vélik, hogy ez a szorgalom és fegyelmezettség a munka területén is megnyilvánul, azaz sokan munkamániásnak titulálják őket.



A megkérdezettek kétötöde szerint kreatív és környezettudatos nép, akik azonban elrejtik valódi érzéseiket. Ez utóbbi jellemző, a fegyelmezettséggel és udvarissággal kiegészítve azt eredményezi, hogy alapvetően úgy vélik, saját, önálló véleményt nem mernek kialakítani, vagy nem merik vállalni azt.

A magyarok szerint az egyáltalán nem jellemző a japán emberekre, miszerint egyéniség nélküliek lennének vagy kirekesztően viselkednének. Egyéb jellemzőt mindössze 1%-nyian említettek (pl.: céltudatosak, maguknak valók, fiatalok extrémén öltözködnek (1-1 fő mondta)).

Mint ahogy az országra vonatkozó benyomások esetében, úgy a lakóira vonatkozóan is, a férfi válaszadók a legtöbb tulajdonságot jellemzőbbnek érzik, mint a nők.

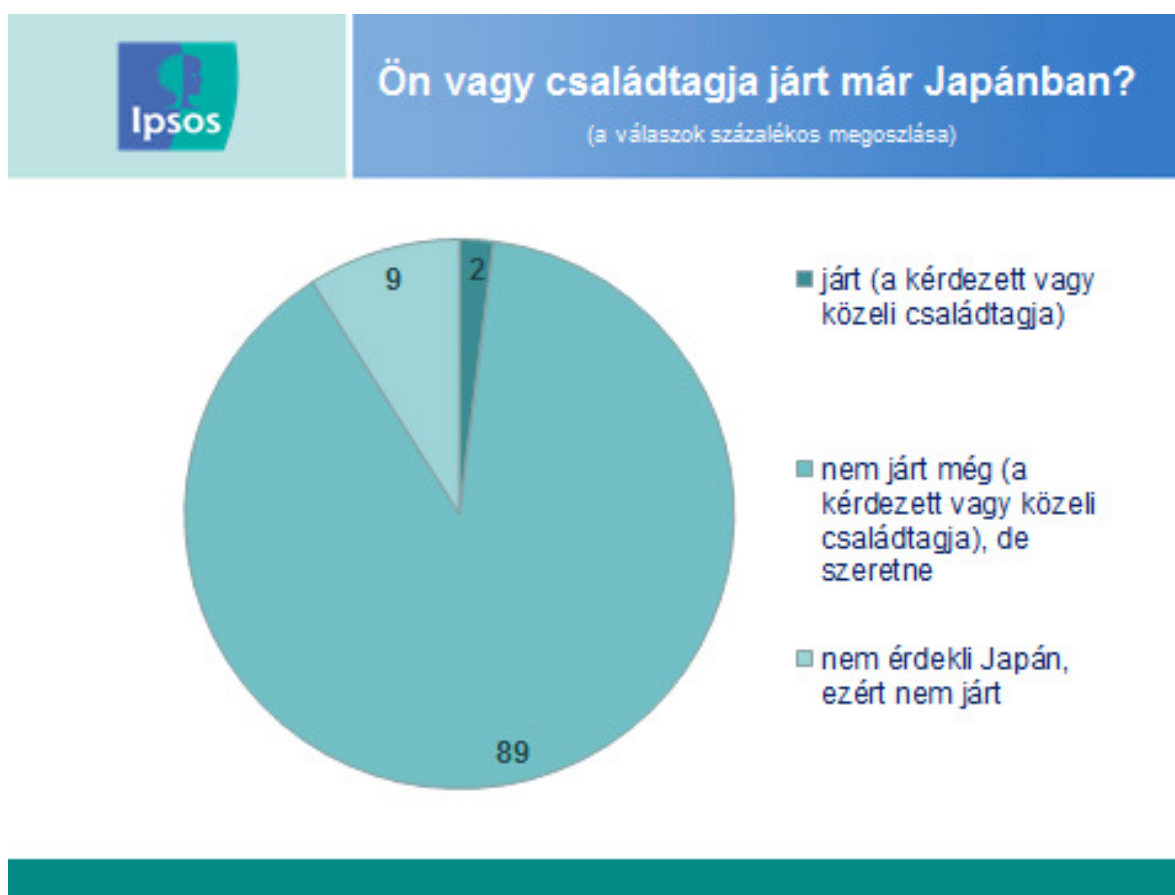
Az életkor előrehaladtával szintén emelkedik egy-egy adott tulajdonságot a japánokhoz kapcsolók aránya.

Minél kvalifikáltabb a válaszadó, annál inkább úgy véli, hogy a japánok fegyelmezettek, s minél kevésbé iskolázott, annál inkább gondolja azt, hogy kirekesztők.



Utazni vagy nem utazni – okok és tapasztalatok

Rendkívül csekély, mondhatni **elenyésző azon magyarok aránya, akik már jártak Japánban**. Mindössze 2%, akik személyesen vagy akiknek közeli családtagja már járt a szitegországban. A lakosság **döntő többsége**, kilenczede **szívesen meglátogatná az országot**, amennyiben módja és lehetősége nyílna rá. Minden tizedik válaszadó ugyanakkor ha lehetne sem élne ezzel a lehetőséggel. A *diplomások körében a legmagasabb (6%) azok aránya, akik már voltak Japánban, s a legalacsonyabb (4%) azoké, akik teljesen elzárkóznak egy ilyen utazás elől.*



Az, hogy ilyen sokak számára Japán csupán egy vonzó úti cél marad, de nem válik tényleges célállomássá, **elsősorban anyagi kérdés**. Héttizednyien a drága repülőjegyre hivatkoznak, az ottani árak már csak kéttizednyi válaszadót tartana vissza. Ugyanakkor az egyéb válaszok között is 8%-nyian általános anyagi nehézségekre mutattak rá, amely ellehetetleníti az utazást. Tény, hogy Japán messze van, azaz inkább „hosszabb” időre lenne érdemes odautazni, nem csupán egy-két napra. A repülőjegy, a kinti megélhetés, különösen ha egy családból többen is szeretnének menni, komoly költséget jelent. Sokak számára a mindennapi megélhetés is komoly probléma, így egy ilyen utazás lehetősége a többségben gyakorlatilag fel sem merül.

Önmagában az a tény is, hogy Japán messze van, sokakat elbátortalanít (a kérdezettek felét). A „technikai” akadályok közül a nyelvismeret az, amelynek hiánya többeket (40%) itthon maradásra készíthet, az információhiány kevésbé releváns szempont, hiszen az pillanatok alatt pótolható. A kinti tájékozódás, közlekedés bonyolultsága is csak keveseket riasztana el az utazástól.

Jelen kérdés esetében is fellelhető az a nem nagy (6-7%), de masszívan jelenlévő csoport, amely számára nem vonzó úti cél Japán. Az egyéb válaszok között az anyagi indokok és az inkább kedveltebb európai célok mellett további indokként szerepelnek az időhiány, valamint az életkor és betegségek, mint az utazás akadálya (2-3 fő említette).



Akik egyébként nem vágnak Japánba, azoknak kevésbé „fájnak” az utazás esetleges költségei, hanem egyszerűen nem vonzó számukra az ország, noha kevésbé is rendelkeznek róla információval, de sokkal jobban zavarja őket, hogy messze van. Aki el szeretne oda jutni, annak elsősorban anyagi természetű problémája van a dologgal kapcsolatban.

A távolság az időseknek és a fővárosiaknak nagyobb gond az átlagosnál, míg a nyelvismeret hiánya szintén az időseknek, valamint az alacsony iskolai végzettségűeknek az. A kinti magas árak miatt a diplomások aggodalmaskodnak a leginkább.

Ha valaki mégis eljutna Japánba, mind a természetes, mind az épített környezet megtekintése fontos lenne számára. A shinto-szentélyek, buddhista templomok, japánkertek és más építészeti emlékek, valamint a táj megismerése a válaszadók közel nyolctizede számára elsődleges. A japán konyha, ételek megismerése, ízlelése a megkérdezettek hattizedét foglalkoztatja. Kulturális intézményeket, múzeumokat is több mint a lakosság fele látogatna meg, míg a hagyományos kultúra, a zene, a kabuki, no közel ennyi látogató számára lenne vonzó.

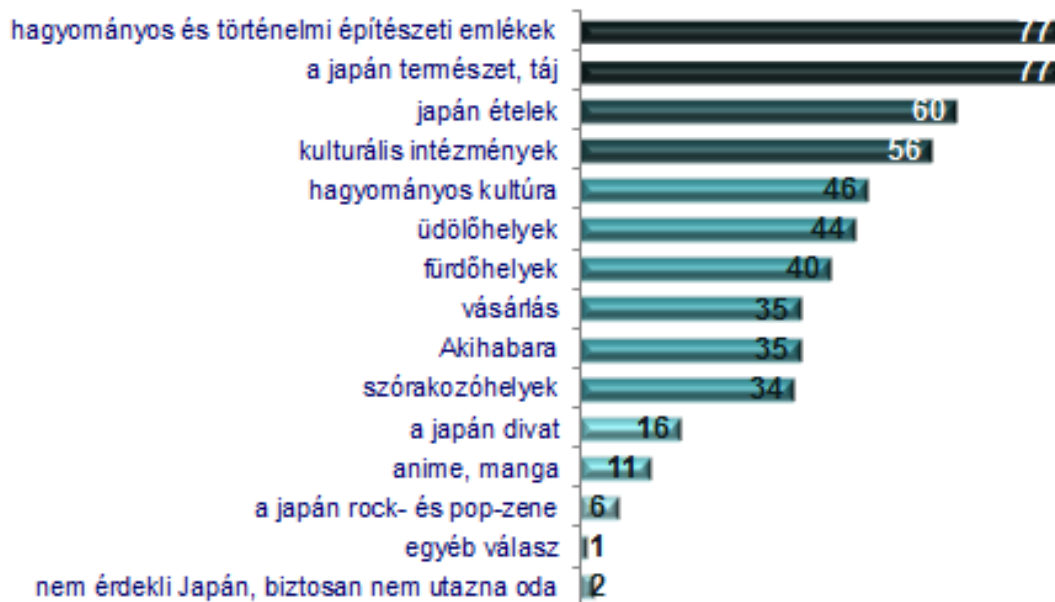
A kikapcsolódást, pihenést szolgáló, „tipikus nyaralótevékenységek”, mint az üdülő- és fürdőhelyek, szórakozóhelyek meglátogatása, a vásárlás, az Akihabara, az elektronikai cikkek negyedének felkeresése a válaszadók 34-44%-ának programjába férne bele.

A jelenlegi japán divat, a street fashion, a pop- és rock-zene, valamint a manga képregények és anime rajzfilmek világa viszonylag keveseket vonz.

Egyéb érdeklődési területet mindössze 1%-nyian említettek, mint például a vidéki vagy a vallási élet, harcbemutatók, makettek megtekintése (1-1 fő válasza).

Ipsos

Ha lehetősége lenne, hogy eljusson Japánba, miket nézne, tapasztalna meg szívesen?
(válaszok százalékos megoszlása azok körében, akik még nem voltak Japánban; N=571)



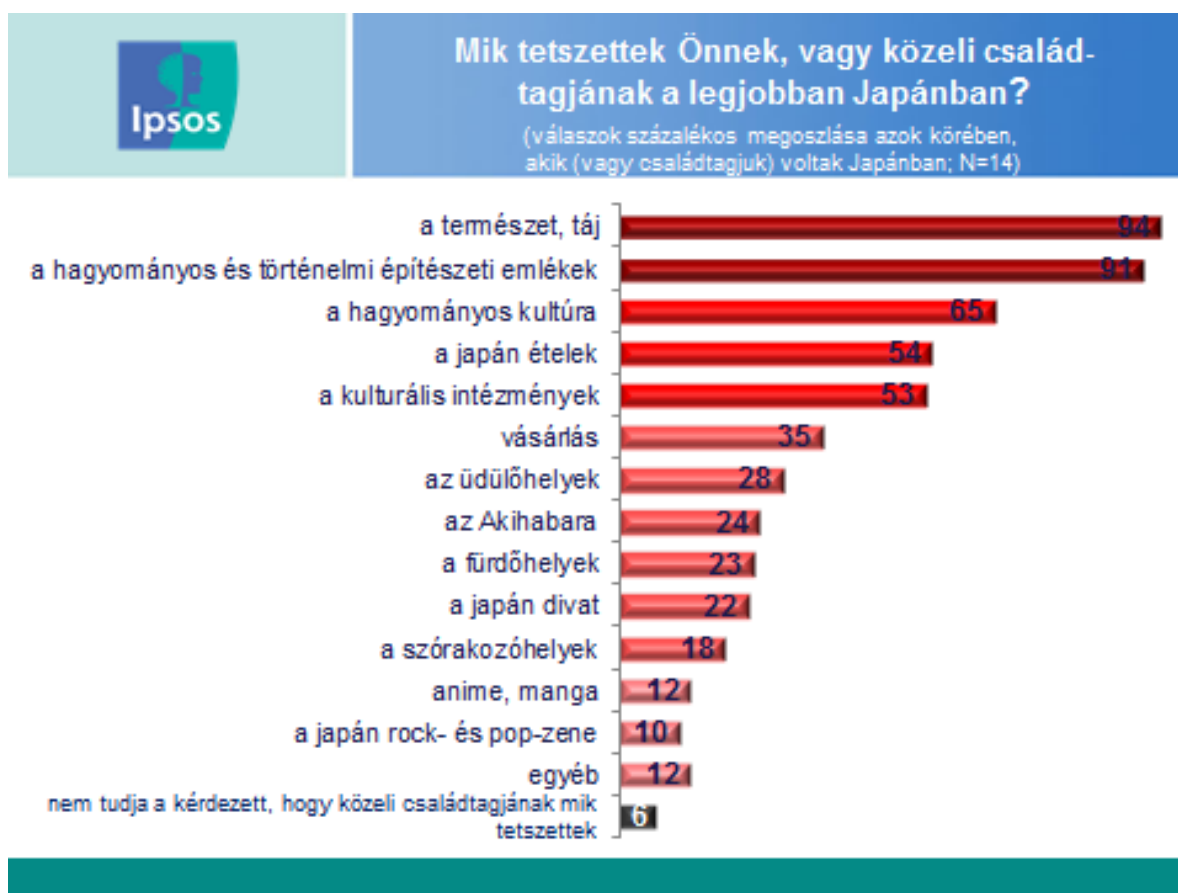
A fent megjelölt fő nevezetességek (építészeti emlékek, táj, ételek, múzeumok) meglátogatása minden vizsgált szocio-demográfiai csoport számára egyformán fontos. (Természetesen akik szeretnének eljutni Japánba, azok számára minden látnivaló értékesebb, mint akik úti céljai közt nem szerepel Japán.)



A hagyományos kultúra inkább a nőket köti le, mint a férfiakat (51 vs. 40%). Az üdülőhelyeket a nők, az idősök, valamint a vidéki nagyvárosokban élők keresnék fel az átlagosnál szívesebben (50-49-49%).

Az Akihabara elsősorban a férfiak, valamint a fővárosiak számára vonzó (51 és 43%), míg a szórakozóhelyek felkeresése szintén a férfiak, illetve az alacsony végzettségű válaszadók számára érdekesebb (39-38%). A divat a nőket, a modern zene a férfiakat érdekli jobban. Ezen kívül még a fiatalokat az átlagosnál jobban érdekli a manga, anime, valamint szintén a zene.

Azok tapasztalatai és élményei, akik már jártak Japánban, gyakorlatilag egybecsengenek azokkal a várakozásokkal, amelyek az útban még csak reménykedőkben vannak – azaz a „mit szeretne megnézni” és a „mi hogy tetszett” sorrendek szinte teljesen megegyeznek. **Az épített környezet és a természet a válaszok alapján teljesen lenyűgözte a látogatókat** (több mint kilenctizedüknek tetszett), s esetükben is a kulturális látnivalók megelőzik a nyaralós programokkal való elégedettséget. (Az esetszám rendkívül alacsony volta azonban e kérdés részletesebb elemzését nem teszi lehetővé.)

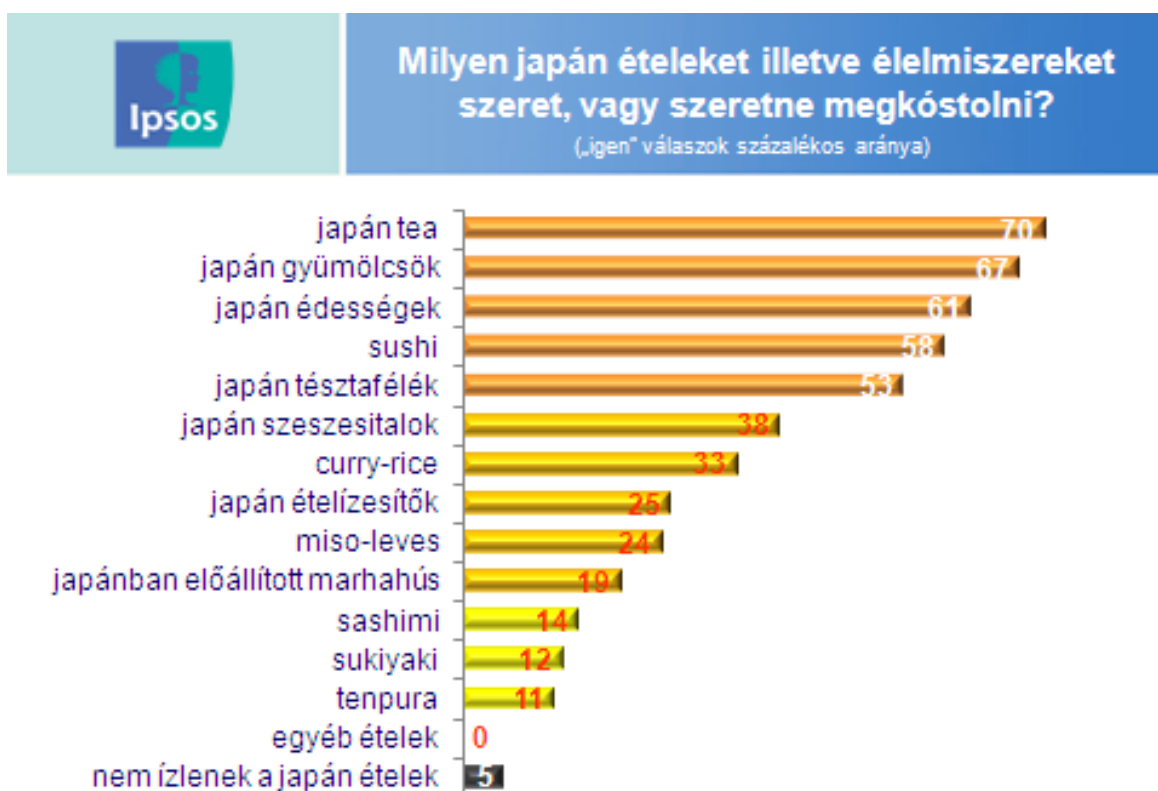


Mint ahogy arról már az imént volt szó, a japán konyhát sokan szeretnék kipróbálni. Ezen belül is a **legtöbben**, a megkérdezettek héttizede a japán **teát szeretné** elsősorban **megkóstolni**. Közel ennyien kíváncsiak a helyi gyümölcsök és édességek ízére. A talán legismertebb japán ételt, a sushit a magyarok hattizede enné meg. A tésztaféléket (mint például a soba, az udon, a somen, vagy a ramen) is a válaszadók bő fele kóstolná meg.

A sake és a currys csirke már kevesebbek számára vonzó. A különböző fűszereket, ételízesítőket (mint például a wasabi, a szójaszós, a miso, valamint az abból készült levest (miso-leves)) egynegyednyien próbálnák ki, míg a japán marhahúsra egyötödnyien kíváncsiak.

A hazánkban kevésbé ismert ételek (sashimi, sukiyaki, tenpura) elfogyasztására egyelőre a jelentkező is kevesebb.

A Japántól való elzárkózás az ételek dimenziójában is tetten érhető: minden huszadik válaszadó elmondása szerint nem szereti a japán ételeket, így nem is vállalkozna azok kipróbálására.



A japán gyümölcsökre a vidéken élők, de a legtöbb étel és a sake kipróbálására a férfiak és a fiatalok kaphatóak a leginkább.

A japán-magyar kapcsolat és együttműködés

A japán-magyar kapcsolatok, közös pontok kapcsán arról is kérdeztük a mintába került személyeket, hogy mit gondolnak a **Magyarországon működő japán cégekről**. A válaszok alapján alapvetően egy **pozitív kép** bontakozik ki. A megkérdezettek hat-, öttizede úgy látja, hogy a japán foglalkoztatók nem csak álláshelyet biztosítanak, de hozzájárulnak az ország technológiai, és a magyar gazdaság fejlődéséhez is. Kiemelik ugyanakkor azt is, hogy a hazaitól eltérő munkamorállal dolgoznak. Azt viszonylag kevesen, az emberek harmada-negyede gondolja róluk, hogy figyelnek a környezetükre, illetve hogy kedvező munkakörülményeket biztosítanak, viszont azt meg nem tartják rájuk jellemzőnek (mindössze egytizednyien), hogy csak a saját hasznukkal törődnek. Nem tudott véleményt formálni a megkérdezettek 7%-a.



Minden felsorolt jellemzőnek (az önző munkáltatói magatartás kivételével) nagyobb jelentőséget tulajdonítanak a férfiak, mint a nők. Az életkor előrehaladtával is egyre több tényező, úgy mint a technológiai és gazdasági fejlődés, a környezet védelme és az eltérő munkamorál, fontosabbá válnak. Az iskolai végzettség emelkedésével egyre inkább kiemelték a foglalkoztatottság növelésének fontosságát, illetve az eltérő munkamorált, mint jellemzőt.

Településtípus szerint nézve a következő különbségek figyelhetők meg: a fővárosban élők szerint az átlagosnál fontosabb, hogy a japán cégek hozzájárulnak a hazai technológiai fejlődéshez, míg a községekben élők az átlagosnál inkább vélik úgy, hogy a japán vállalatok figyelnek a környezetükre és kedvező munkakörülményeket biztosítanak.

Az utóbbi években Magyarországon **önkéntesek** japán nyelvet tanítottak és különböző eseményeken **népszerűsítették a japán kultúrát**. Erről azonban a **többség**, az emberek kétharmada **nem értesült**. Egyharmadnyian hallottak ezekről a programokról, ám mindössze 1%-nyian éltek is a lehetőségekkel. *Leginkább az időseket, legkevésbé a fiatalokat érte utol az információ (42 vs. 29% hallott róla).*

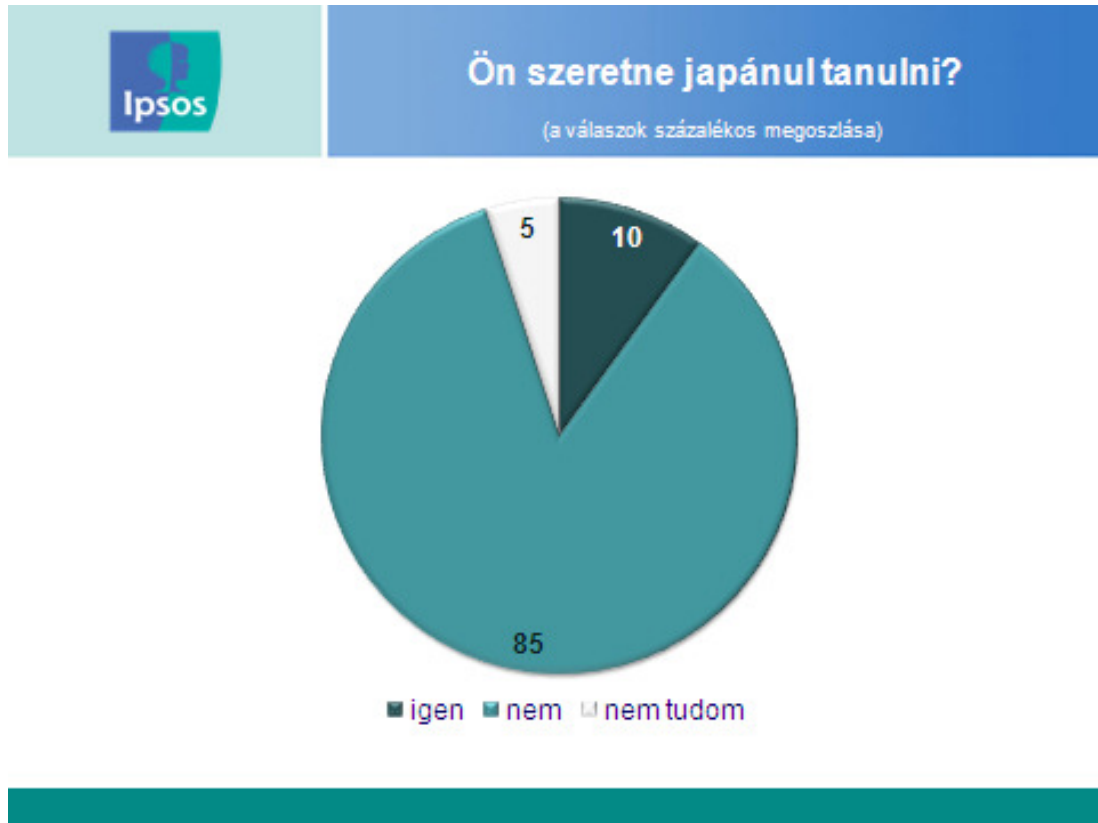
Ipsos

Hallott Ön arról, hogy az utóbbi években Magyarországon japán önkéntesek japán nyelvet tanítottak és különböző eseményeken népszerűsítették a japán kultúrát?

(a válaszok százalékos megoszlása)



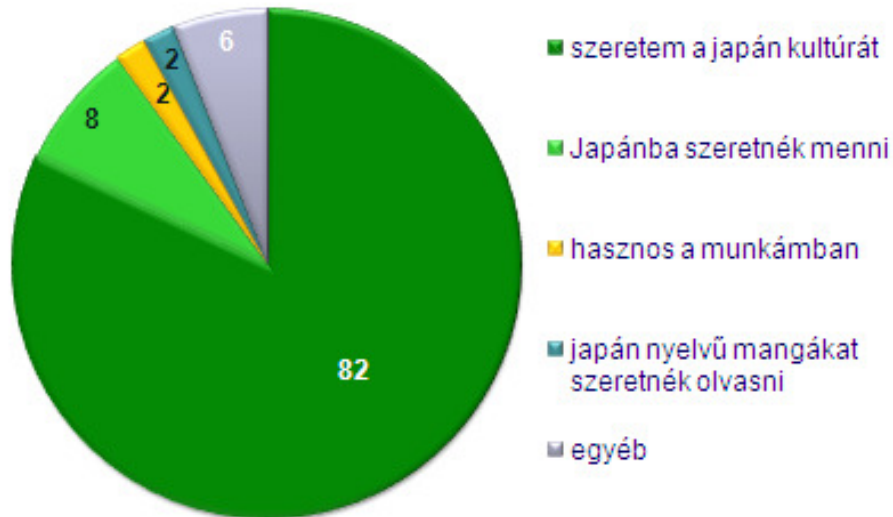
Japán nyelvet a megkérdezettek 10%-a tanulna szívesen, igen magas 85%-uk nem tanulná ezt a különleges nyelvet, csupán 5%-nyian bizonytalanok abban, hogy tanulnának-e vagy sem.



Azok körében, akik szeretnének japánul tanulni és az indítattásaikat keressük, akkor azt találjuk, hogy a japán kultúra az, ami legnagyobb hatással van a jövőbeli esetleges nyelvtanulókra (82%), második okként azt választották, hogy Japánba szeretnének utazni (8%), ugyanakkor, jóval kevesebben választották azt, hogy hasznos a munkájukban (2%), vagy hogy japán nyelvű mangákat szeretnének olvasni (2%). 6%-nyian nem tudják, miért is tanulnának szívesen japánul.

Miért szeretne japánul tanulni?

(a válaszok százalékos megoszlása, azok körében, akik szeretnék japánul tanulni)



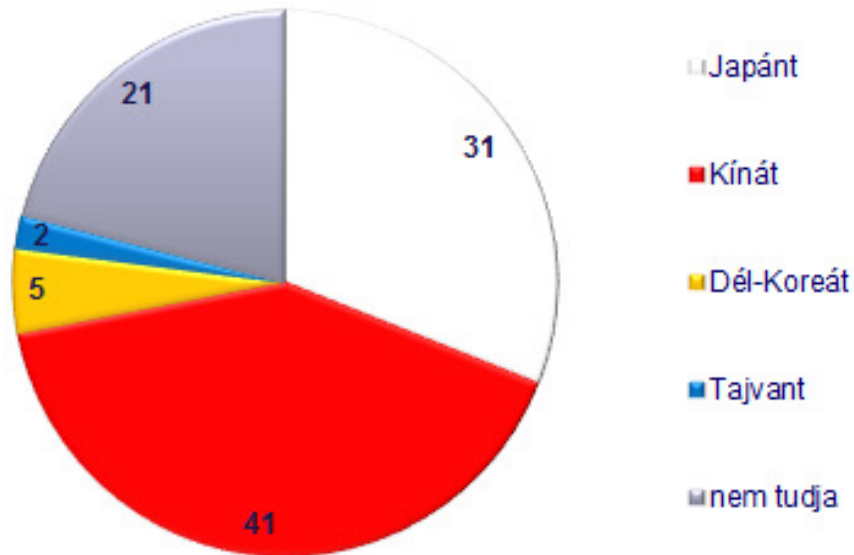
A mintába került személyek ötöde nem tudja, hogy az általunk felsorolt országok közül melyiket tekintse hazánk legfontosabb ázsiai partnerének. Az érdemi válaszokból egyértelműen kiderül, hogy **Kínát és Japánt fontos partnernek tartják**, míg Dél-Koreát és Tajvant nem. Kínáról többen feltételezik, négytizednyien, hogy Magyarország legfontosabb partnere a Távol-Keleten, míg Japánnal kapcsolatban háromtizednyien vélekednek így.

Az alacsony végzettségűek, a községekben élők és a nők egyformán fontosnak vélik Japán és Kína szerepét. A többi vizsgált csoportban nagyobb arányban vannak azok (a diplomások és a fővárosiak körében kétszeres a különbség), akik Kínát tartják a jelentősebb ázsiai partnerünknek.



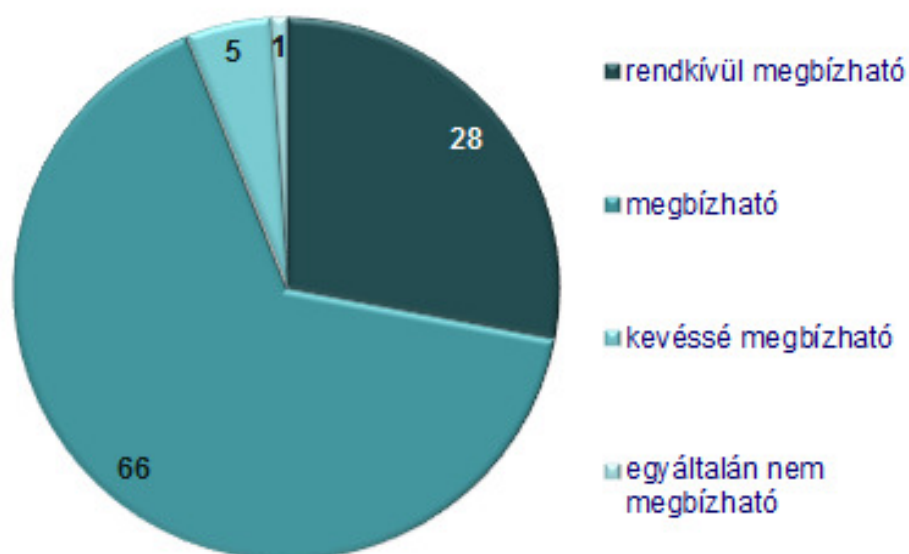
Az ázsiai országok közül mely országot tartja Magyarország legfontosabb partnerének?

(a válaszok százalékos megoszlása)



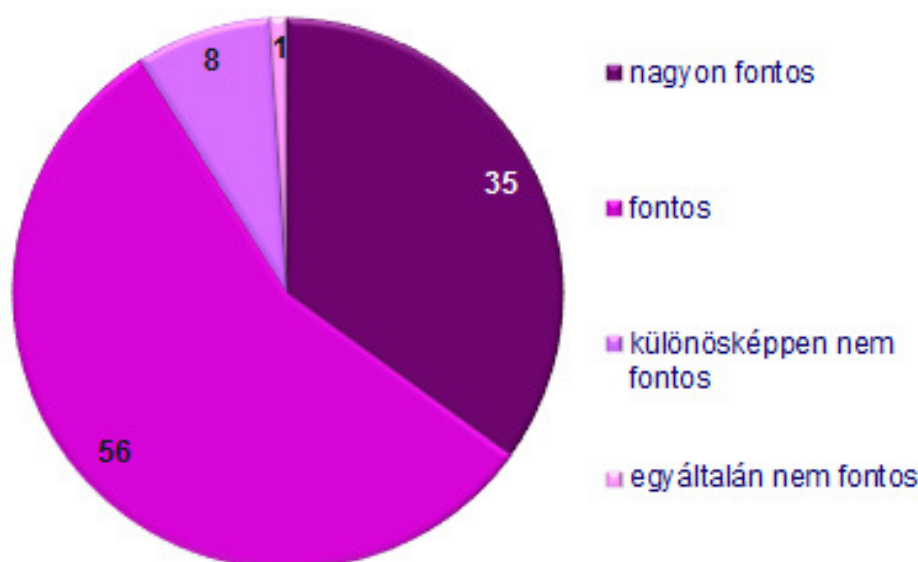
Általában megbízható országnak tartja Ön Japánt?

(a válaszok százalékos megoszlása)



A magyarok Japánt alapvetően egy megbízható országnak tartják. 28%-nyian rendkívül megbízhatónak, további kétharmadnyian megbízhatónak minősítették, s csupán 6%-nyian vannak, akik kevéssé vagy egyáltalán nem bíznak meg benne.

Nincs olyan társadalmi-demográfiai csoport, ahol a negatív vélekedések az átlagosnál nagyobb teret kapnának. Különbségek tehát csak a bizalom mértékében észlelhető. Akik az átlagosnál nagyobb arányban minősítették „rendkívül megbízhatónak” Japánt, azok a férfiak, a diplomások, és a fővárosi lakosok (36-38-34%).



A lakosság **döntő többsége**, kilenc-tizede **fontosnak tartja**, ezen belül bő egyharmadnyian nagyon fontosnak, **hogy hazánk Japánnal jó viszonyt alakítson ki**. Mindössze 9% azok aránya, akik szerint a két ország közti baráti kapcsolat kialakítása nem lényeges szempont. *A férfiak, valamint a 60 év feletti válaszadók tartják az átlagosnál is fontosabbnak a két ország közti jó kapcsolat fenntartását.*

Elsősorban a gazdasággal valamilyen módon összefüggő területekkel kapcsolatban vélik úgy, hogy a magyar-japán együttműködést fejleszteni kellene. A megkérdezettek kétharmada szerint a tudomány és technika, héttized szerint a kereskedelem területén kellene szorosabbra fűzni a két ország viszonyát. Az energiagazdálkodás és a turizmus a válaszadók több mint fele szerint szintén olyan terület, ahol hasznos lehet a két fél együttműködése.

Politikai kérdésekben, diplomáciai és nemzetbiztonsági területen a válaszadók negyede, a kulturális és civil szférában, valamint a környezetvédelemben a megkérdezettek kétötöde szerint van szükség a két ország közeledésére.

Egy százaléknyan egyéb területeket vetettek fel, mint például az egészségügy, vagy a sport, a harcművészetek terepe, ahol fejleszteni lehetne a két ország együttműködését (2-1 fő említette).



A tudomány és a technika területén szorosabb együttműködés kialakítását az átlagosnál jobban szorgalmazzák a férfiak, az idősek és a felsőfokú végzettségűek (84-86-86%). A kereskedelemben és a környezetvédelemben csupán a férfiak fűznék szorosabbra a kapcsolatot (78% és 46%).

Az energiagazdálkodás terén szintén a férfiak, a 60 év felettek, valamint az alacsony végzettségűek tartanák hasznosnak az intenzívebb együttműködést (61-66-60%).

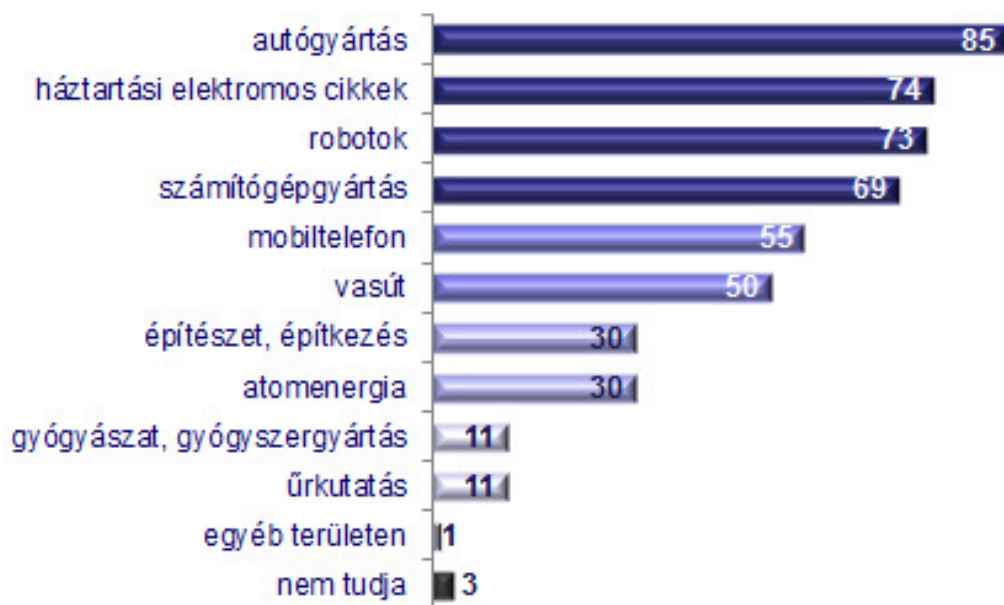
A kulturális és civil kapcsolatok erősítése a diplomások szerint lenne fontos (46%), míg a politikai kapcsolattartást a nők és az alapfokú iskolai végzettségűek tartják lényegesebbnek az átlagosnál (30-30%).

Japán helye a nagyvilágban

Japán számos területen képes minőségi termékek előállítására, nívós dolgok létrehozására. Ezek egy része evidensként él az emberek fejében, míg más területeken szerzett eredményeik kevésbé ismertek. Abban nagy a konszenzus (85% egyetért), miszerint a **japán autógyártás világszínvonalú**. Azzal is a többség tisztában van (73%), hogy a **robotok** készítésében és használatában Japán az élen jár. A háztartási elektromos cikkek, a számítógépek és mobiltelefonok gyártása is a megkérdezettek háromnegyede-fele szerint Japánt az elsők közé emeli az adott szférában.

A rendkívüli sebesség elérését lehetővé tevő, Shinkansen vasútvonalak különlegességével már kevesebben, a megkérdezettek fele van tisztában.

Háromtizednyien emelték ki az építészet és az atomenergia terén elért eredményeket, míg a gyógyszeripar és az űrkutatás japán jelentőségét egytizednyien feltételezik. Az 1%-nyi egyéb említések közt például a „know how”, a ruházat, és a vegyipar szerepelnek, mint amiben Japán az élen áll (1-1 fő szerint).



A japánok bizonyos területeken elért (autó-, számítógépgyártás, robotok, vasút, űrkutatás) kimagasló teljesítményével a férfiak jobban tisztában vannak, mint a nők.

59

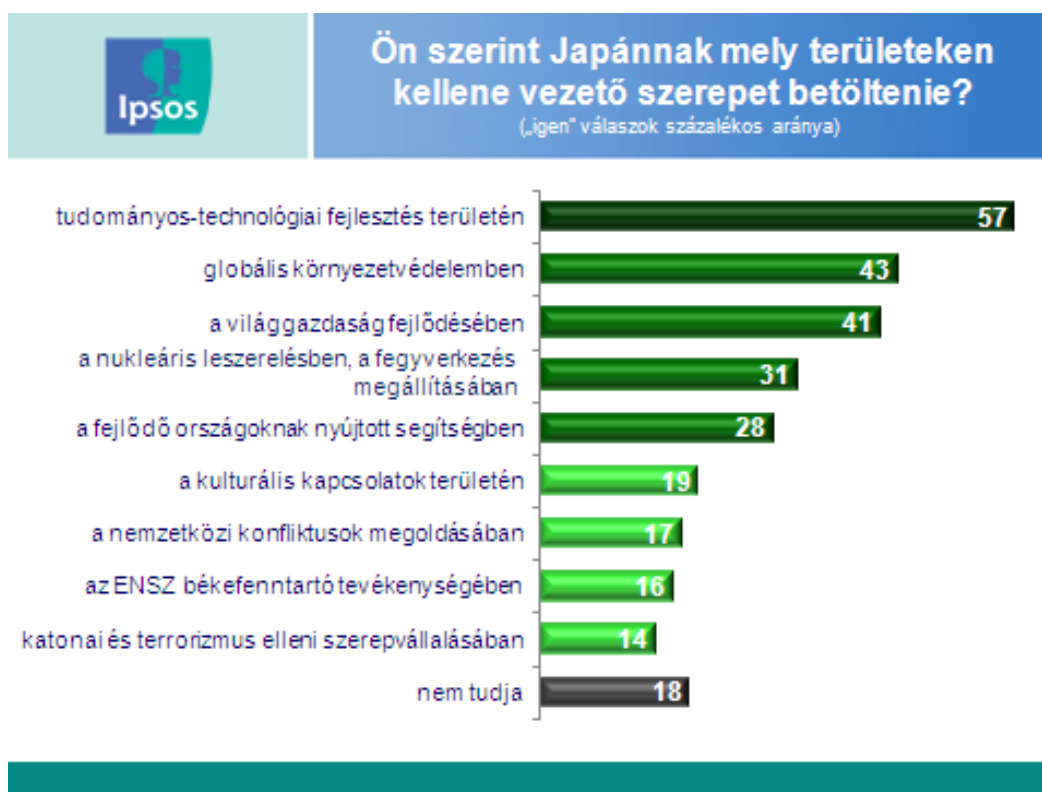
A számítógépgyártás, a vasút, valamint az atomenergia kapcsán elért eredményekről az életkor előrehaladtával egyre többen tudnak. Az iskolai végzettség emelkedése e kérdéskörrel kapcsolatban nem mindig jelent biztosabb ismereteket.

Több területet soroltunk fel, amelyekkel kapcsolatban azt kellett a mintába került személyeknek eldönteniük, hogy – gazdasági erején kívül még – mely területeken kellene Japánnak vezető szerepet betöltenie. Viszonylag sokan, a megkérdezettek ötöde nem tudott érdemben felelni a kérdésre.

A legtöbben, 57%-nyian a már jelenleg is komoly érdemeket felmutatni képes **tudományos-technológiai fejlesztés területét** jelölték meg, mint amiben **Japánnak az élen kell, kellene járnia**. Ezzel összefüggésben, a világgazdaság fejlődésében a megkérdezettek négytizede szerint Japánnak is komoly szerepet kell(ene) vállalnia. Ennyien vagy még kevesebben vannak azok, akik szerint a többi, nem elsősorban gazdasági feladatban is része kellene hogy legyen a szigetországnak. A globális környezetvédelem például a megkérdezettek 43%-a szerint ilyen feladat.

Számos, a béke elősegítését és fenntartását célzó megbízást is Japán fő feladatai közé delegálnának: a fegyverkezés megállítása, a nemzetközi konfliktusok megoldása, az ENSZ békefenntartó tevékenységében való részvétel, vagy a terrorizmus elleni szerepvállalás mind-mind ilyen feladat. Ezekben a megkérdezettek 31-14%-a szerint Japánnak komolyabb szerepet kellene vállalnia.

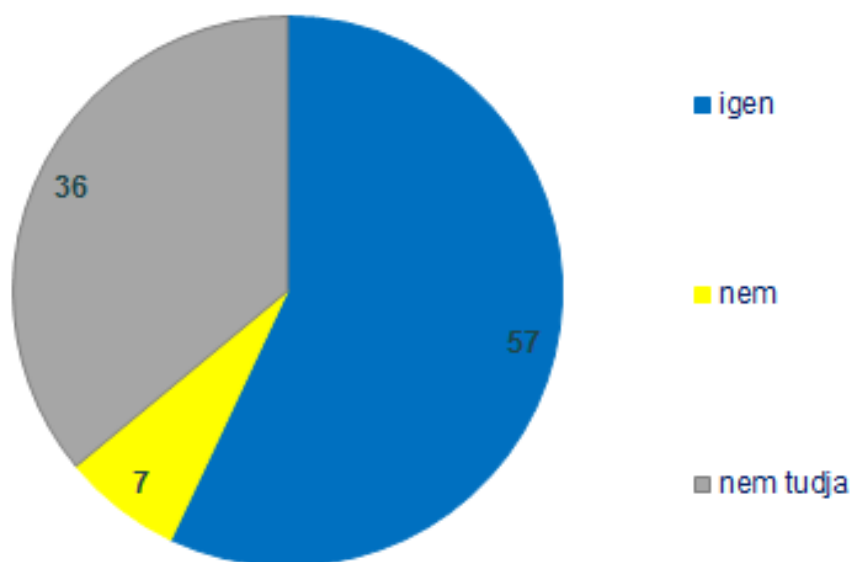
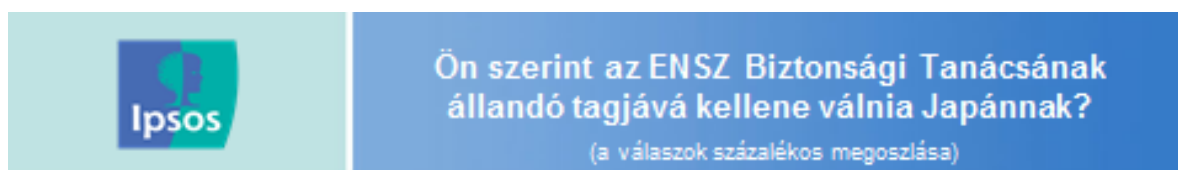
A válaszadók három- kéttizede szerint egy ilyen nagyhatalomnak a rászorulókat, azaz a fejlődő országok megsegítése, valamint a nemzetek közötti kulturális kapcsolatok erősítése szintén dolga.



A tudományos-technológiai fejlesztés elsődlegességét egyre többen emelték ki az életkor és az iskolai végzettség emelkedésével, valamint a férfiak körében. A világgazdasági vezető szerep, valamint a globális környezetvédelem is fontosabb terület a férfiak, mint a nők szerint. A fegyverkezés megállításában történő komoly beavatkozást az átlagosnál fontosabbnak tartják a fővárosi lakosok, az idősek, és a férfiak inkább kiemelték, mint a nők.

Japán az ENSZ békefenntartó tevékenységében való részvételét a magasabb iskolai végzettségűek kevésbé tartják fontosnak. Az átlagosnál nagyobb jelentőséget tulajdonítanak viszont neki az idős és a községekben élő válaszadók. A kulturális kapcsolatok erősítését pedig a fővárosiak tartják lényegesebbnek az átlagosnál.

Noha Japán az ENSZ BT egyik fő finanszírozója, annak mégsem állandó tagja. A megkérdezettek 7%-a szerint ez jól is van így, a **többség**, a válaszadók 57%-a viszont azon az állásponton van, hogy **Japánnak az ENSZ Biztonsági Tanácsának állandó tagjává kellene válnia**. E kérdés esetében kifejezetten magas, 36% azok aránya, akik nem tudtak állást foglalni.



A férfiak markánsabb véleményt fogalmaztak meg, mint a nők, így körükben azok is nagyobb arányban vannak, akik szerint állandó BT taggá kellene válnia Japánnak, meg azok is, akik szerint nem (62 és 10%), mint a nők körében.



Az életkor előrehaladtával egyre többen foglaltak állást a kérdésben, mégpedig az „igen” szavazatok javára (a fiatalok 51, az idősek 66%-a szerint kellene Japánnak BT taggá válnia).



